

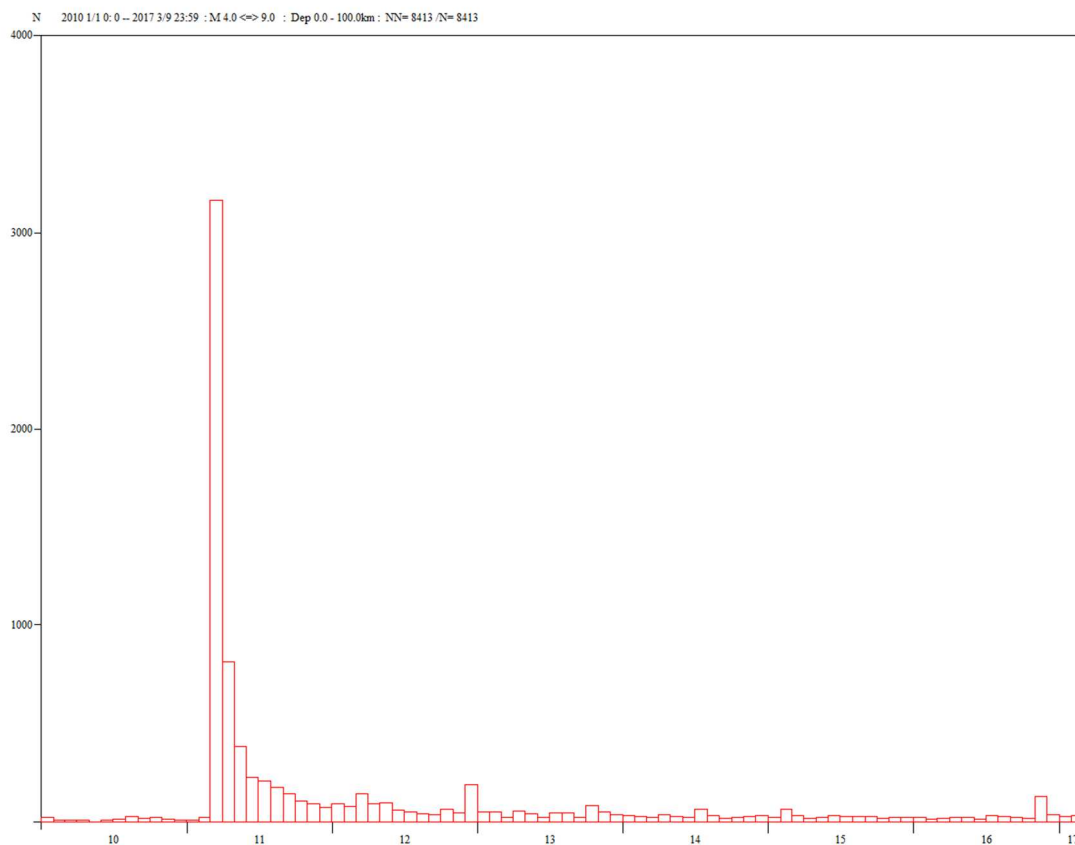


## 東日本大震災から丸6年が経過しました

3月11日の土曜日には色々な震災関連の番組が放映されました。東日本大震災以降、日本列島の地下の状態は大きく変化してしまいました。東北地方では、我々の地下天気図の解析も2011年5月以降のデータを用いて解析を行っており、それ以前の地震発生パターンの経験則がうまく使えるようになっていません。

またよく聞かれる質問に「余震はいつまで続くのですか」というものがあります。実は東日本大震災クラスの地震では、厳密な意味での余震は百年オーダーで続きます。また実際に被害が出るような余震が20-30年後に発生する事も珍しくないと考えられています。

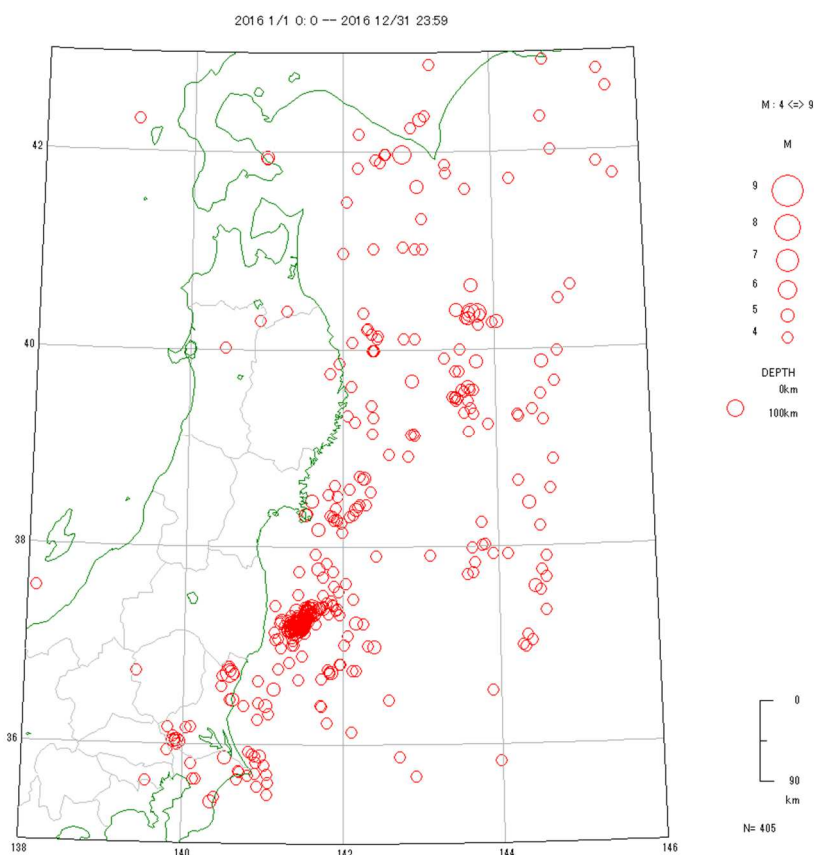
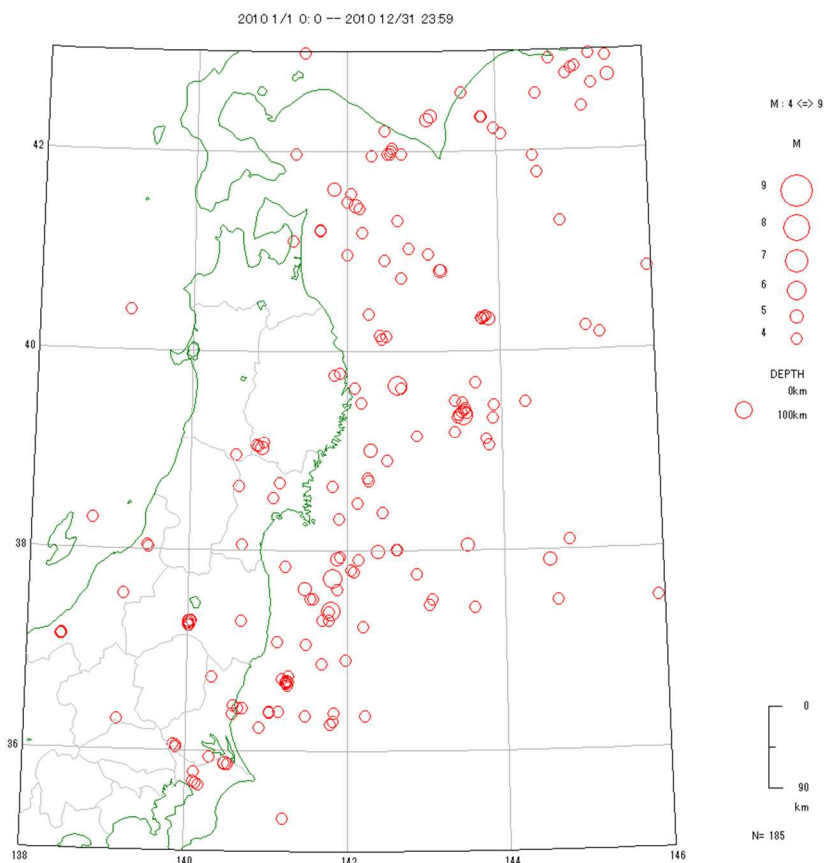
下の図は東北地方でどれくらい激しい地震活動が起きていたのかを示す図です。2010年1月から2017年3月9日までのマグニチュード4 (M=4) を超える地震の月別発生数です。



2011年3月には一ヶ月でM=4以上の地震が3,000個以上発生していました。

また現在の余震活動ですが、震災前の2010年のM=4を超える地震の平均月別発生数は15個（年間185個：次ページの上の図）ほどでした。それに対し2016年のM=4を超える地震の平均月別発生数は34個（年間405個：次ページの下図）ほどとなっています。

まだ震災前の2倍以上の数の地震が発生している事がわかります。さらにこの図から震災以降、東北地方の内陸部での地震がほとんど発生しなくなっている事がわかります。



**2010年(上)と2016年(下)のそれぞれ1年間に東北地方で発生したM=4以上の地震の分布**

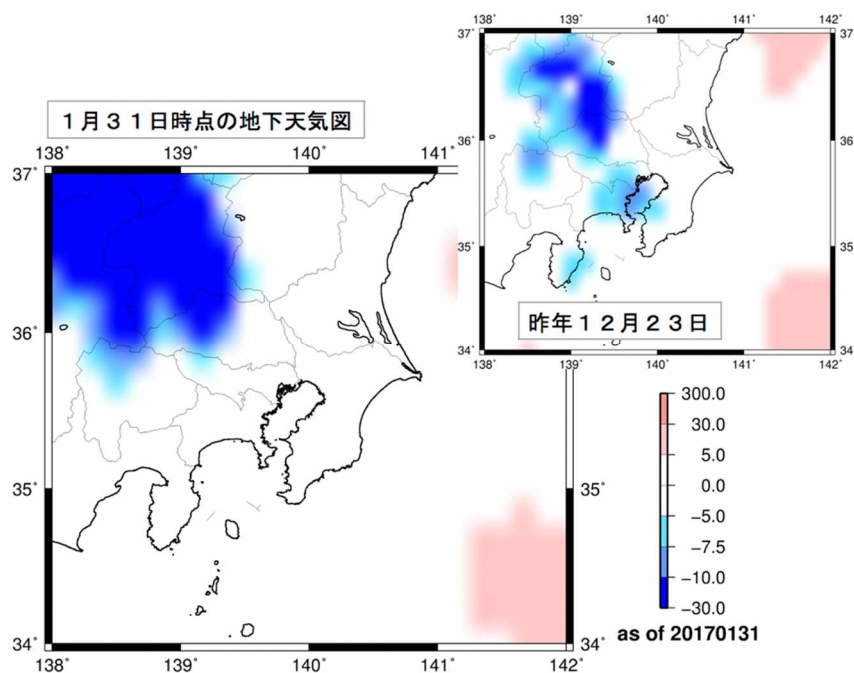
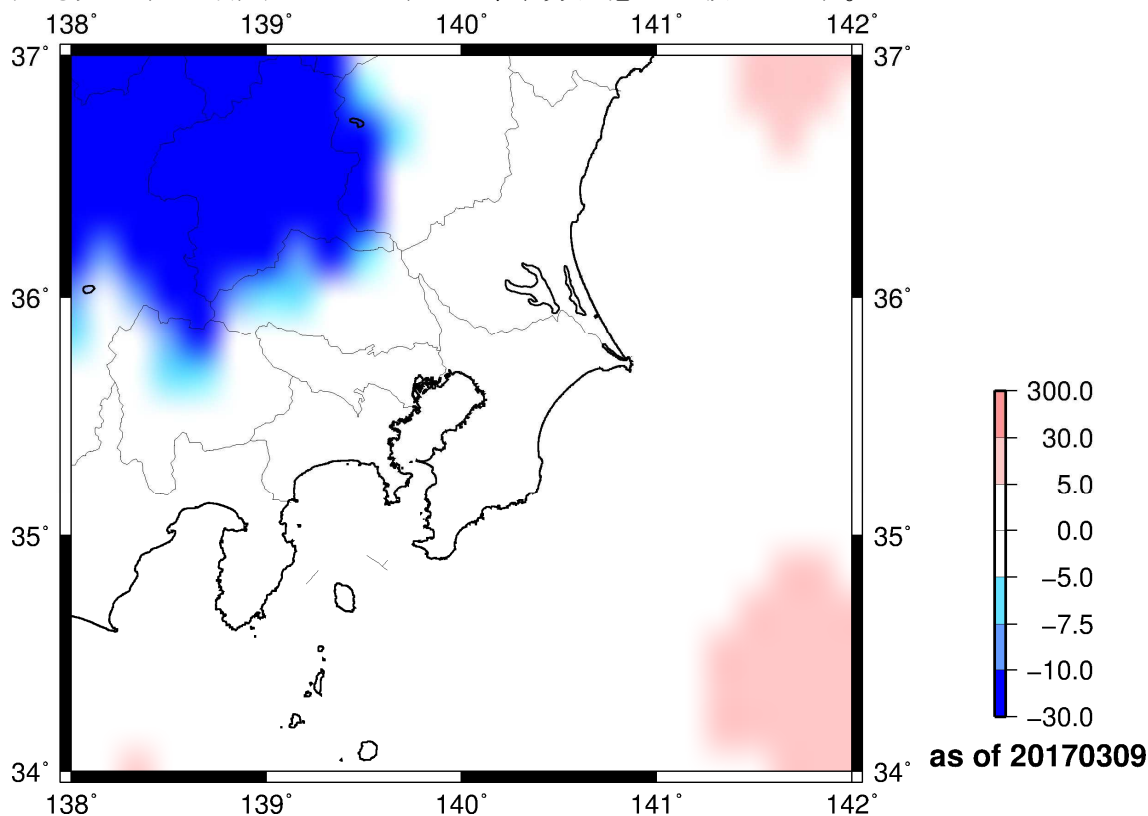
**2010年=185個**

**2016年=405個**



## 首都圏の地下天気図<sup>®</sup>

2月6日のニュースレターでお示した1月31日の図に続き、首都圏の3月9日時点の地下天気図です。基本的に新潟県を中心とした北信越地域の異常が継続しています。地下天気図では異常が消えた後に地震が発生する可能性が高い事が経験的にわかっていますので、この異常がいつ消えるかが重要な意味を持っており、DuMAでも注目しています。また地震は青い色が濃い部分だけでなく、そのすぐ外側でも発生する可能性がありますので、十分注意をお願いします。



2月6日のニュースレターでお示した図